

Topics トピックス

歴史博物館注目のニュースをご紹介します!



今起きていることをリアルタイムで発信し、共有できるSNS(ソーシャルネットワークサービス)の中から、当館ではTwitterを始めてみることにしました。2018年3月1日から博物館の最新情報をお届けしています。



フォローお願いします!



公式ホームページのトップ画面の右下にも表示されていますので、ご関心のある方は、ぜひ一度のぞいてみてくださいね!

次回展覧会のお知らせ

Upcoming Exhibition

夏季特別展

発掘された日本列島 2018

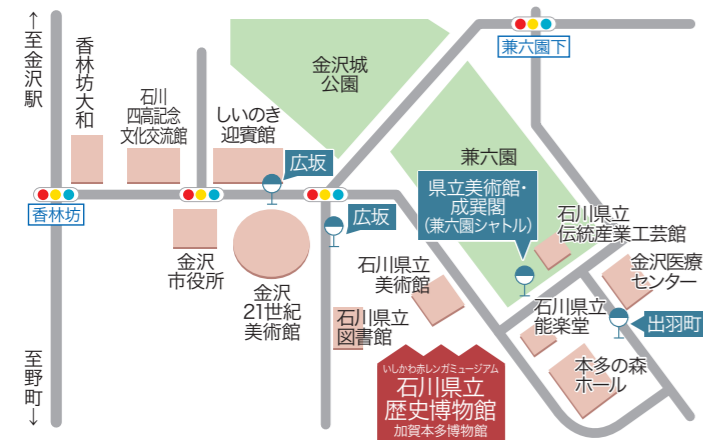
8/4(土)~9/9(日)

※会期中無休

雲出川下流域遺跡群・高茶屋銅鐸(津市教育委員会蔵)



日本各地で毎年約8000件の遺跡の発掘調査が行われています。夏季特別展は、近年の発掘調査のなかから、特に注目を集めた成果を紹介する文化庁主催の全国巡回展です。石川県では、平成16年に当館で開催して以来、2回目の開催になります。この展覧会では、火山の火砕流の下から甲冑を着けた古墳時代の人物が発見された群馬県金井東裏遺跡など、全国の調査成果がまとめて公開されます。展示品のなかには、県内で目にする機会の少ない銅鐸や人物埴輪も含まれています。さらに、近年、県内の遺跡の発掘調査でも重要な出土品が見つかっています。全国巡回展とあわせて、県内遺跡の最新の調査成果を紹介する地域展も同時に開催します。県内外の必見の考古資料が一堂に勢ぞろいすることは滅多にありませんので、ぜひこの機会にご覧ください。



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL:076-262-3236 FAX:076-262-1836
E-mail:rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
http://ishikawa-rekihaku.jp/



広告

フレッツ光で賢くインターネットを始めませんか?

- ✔引越しの予定がある
- ✔CSTVに興味がある
- ✔インターネットの料金が低い
- ✔インターネットの速度が気になる

※「フレッツ光」とは、「フレッツ光ライト」、「フレッツ光ネクスト」および「Bフレッツ」(いずれもインターネット接続サービス)の総称です。
※NTT西日本の設備状況などによりサービスのご利用をお待ちいただく場合や、ご利用いただけない場合がございます。
※インターネットのご利用には、フレッツ光の契約に加え、別途プロバイダーとの契約が必要です。(別途月額利用料等がかかります。)

詳しい内容お問い合わせ
受付時間/9:00~21:00(年末年始を除く)
NTT西日本販売代理店株式会社エイエス・コミュニケーションズ

0120-949-388

石川 ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No.125
2018.4.20



幕末の動乱から石川県誕生に至る
激動の時代を紹介

平成30年度 春季特別展

明治維新と石川県誕生

Meiji Restoration and the Formation of Ishikawa Prefecture

平成30年 4/21(土)▶5/27(日)





平成30年度
春季特別展

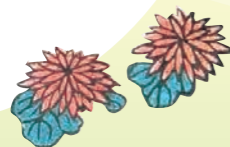
明治維新と石川県誕生

Meiji Restoration and the Formation of Ishikawa Prefecture

平成30年
4/21(土)▶5/27(日)
【37日間】※会期中無休

今年平成30年(2018)は、明治改元(1868年)から満150年の年にあたることから、明治維新に注目が集まっています。さて、日本の近代の起点となった明治維新が、石川の地域社会の形成に大きな影響を及ぼしたことはいうまでもありません。とくに、明治国家の骨組みが完成する明治20年代までは、その針路にいくつかの分岐点をはらむ激動の時代でした。

本展覧会では、幕末の動乱から戊辰戦争、維新の諸変革への対応、士族の民権運動や西南戦争・紀尾井町事件(大久保利通暗殺事件)などの士族反乱、さらに明治16年(1883)に現在の石川県域が確定する過程をたどり、明治前期の政治・社会を地域の視点から紹介します。



▲西南役熊本籠城図幅(個人蔵)



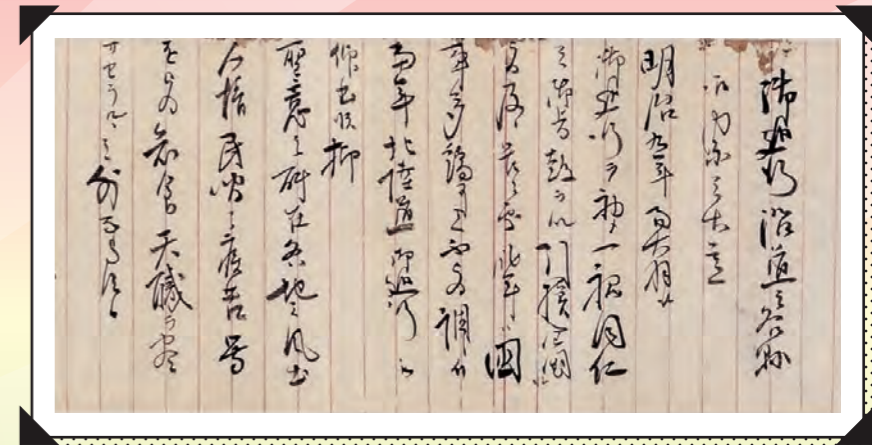
駆け抜けた
激動の時代!!

貴重な品々を
多数展示

◀北越戦争小川大隊長筒袖陣羽織(本館蔵)



▲島田一郎古写真(本館蔵)
左側が島田一郎。
もう一人は杉本乙菊と思われる。



▲大久保利通直筆書類「御巡行沿道之各県江内示之大意」
(重要文化財、国立歴史民俗博物館蔵)

展示
構成

- 序章 幕末の加賀藩
- 1章 戊辰戦争から廃藩へ
- 2章 石川県の誕生
- 3章 地租改正と民衆
- 4章 士族の反乱
- 終章 幕末・維新期の記憶

観覧料

一般800(640)円・大学生640(510)円・高校生以下無料
※()は20名以上の団体料金 65歳以上の方は団体料金
(特別展・常設展セット料金)一般880円・大学生700円

会場

石川県立歴史博物館
特別展示室・企画展示室・ギャラリー

展

覧会のみどころ

1章

戊辰戦争から廃藩へ

慶応4年(1868)1月の鳥羽伏見の戦いに始まる戊辰戦争に、加賀藩兵は新政府側として加わり、北越戦線に投入されました。越後の長岡藩との激しい戦闘は、北越戦争とも呼ばれます。

このコーナーでは、北越戦争で奮戦した加賀藩の小川隊長の筒袖陣羽織が初公開されます。また、加賀藩の戊辰戦争といえは北越での戦争があまりにも有名ですが、一部の部隊は東北へも従軍し、会津軍や仙台軍と戦っていました。その様子が描かれている「奥越出兵図屏風」(個人蔵)も期間限定(4月21日~5月6日まで)で県内初公開されます。戊辰戦争の様子を富山藩の絵師、木村立嶽が描いた貴重な絵画資料です。



2章

石川県の誕生

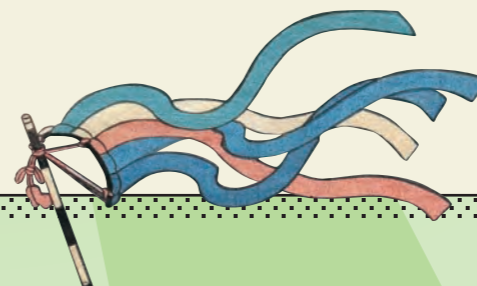
明治4年(1871)の廃藩置県により旧藩主は東京へ去り、行政機関としての県が成立します。

このコーナーでは、石川県の誕生を公文書でたどるとともに、初代長官となった薩摩出身の士族、内田政風に焦点をあてて紹介します。とくに、新政府の中心人物であった西郷隆盛と大久保利通へ宛てた内田の書簡は、3メートルにも及び長大なものです。また、内田の書簡の内、年付けが記されていないものの、今回の調査で明治6年のものと確認できた大久保宛の書簡は、いわゆる「征韓論政変」で西郷が政府を去る前日に内田がしたためたものでした。内田政風の書簡は、いずれも国立歴史民俗博物館所蔵の大久保利通関係資料で、重要文化財に指定されています。

3章

地租改正と民衆

明治初期の近代化政策の中で、最大の時日と人員、そして経費を要したのが地租改正でした。石川県では明治6年(1873)から地券の発行が進められたものの、県全域での発行が完了しないまま地租改正事業になだれ込み、その完了は明治14年(1881)1月までかかっています。この改組作業の過程で、当時の県下でも農民騒擾や増税に抵抗する人びとの運動が見られ、地方長官である県令が交代する事態も生じました。このコーナーでは、これまで紹介されることが少なかった石川県の地租改正について、文書資料や土地の測量に使われた道具などから実像にせまります。



4章

士族の反乱

明治新政府が推進した身分秩序の再編により、既得権益を奪われた士族がたびたび反乱を起こしました。そのうち最大規模のものが、鹿児島県士族が中心となり、西郷隆盛を擁立して引き起こした明治10年(1877)の西南戦争です。7カ月におよんだ戦争の終結から半年余り経った明治11年5月14日、現在の東京都千代田区紀尾井町で政府の最高実力者であった大久保利通が、赤坂御所へ向かう途上暗殺されました。襲ったのは石川県士族・島田一郎や長連豪ら6名で、襲撃の後、暗殺の理由を記した「斬姦状」を持って仮御所へ出頭しました。明治初期に頻発した士族の反乱事件の最後に位置づけられるこの事件は、関係者の多くが石川県士族であったことから、石川の近代史にとっても特筆される出来事です。このコーナーでは、西南戦争を描いた「西南役熊本籠城図幅」(個人蔵)が初公開の資料です。他にも、島田一郎のめずらしい古写真や、遭難時に大久保が所持していた直筆書類(重要文化財、国立歴史民俗博物館蔵)も大変貴重な資料です。また、島田以外にも、華族となった前田家の人びとの展示初公開となる当館秘蔵の古写真を公開いたします。

学芸員コラム

Column

『生き延びる義経 —義経蝦夷渡り図絵馬から—』

学芸員 戸潤 幹夫

神社の拝殿を飾る大絵馬(扁額絵馬)には、文芸世界に浮遊する源平争乱の物語を画題にしたものが多くあります。なかでも薄命の英雄源義経に取材した判官物は絶大な人気を誇りました。そうしたなか、羽咋市一ノ宮町の滝屋神社に衣川館で自刃したはずの義経が蝦夷地に逃げ延び、その地の王となり、後に神ともなったという、いわゆる「義経蝦夷渡り伝説」(「義経入夷伝説」ともいう)に取材した珍しい絵馬が伝わっています。

それは縦89.8cm、横150.5cmを測る桐の板地に直接描かれています。その画面右には、義経が長弓をもって床几に腰かけ、その脇に二人の従者がひかえています。義経は楯形と竜頭の前立てを飾る兜をかぶり、源氏のシンボルである笹竜胆の家紋を付す鎧を身に着けています。

対して左には、法師頭巾をかぶり七つ物を背負う鎧姿の弁慶が座り、その傍らでアイヌとおぼしき二人の人物が膝前に短弓を置いてひざまずいています。これら登場人物の姿形から、画面は蝦夷に渡った義経主従がアイヌを帰属させたという伝説の一場面を描いたものと思われます。

当地では真宗寺院に伝わる聖徳太子絵伝に「蝦夷」の絵像を見ることはありますが、絵馬でのアイヌ像は初めてです。その図像に注目してみると、いずれも肩と腰に蓑のようなものをまとい、矢筒を背負っています。また、頭はつむじが禿げた蓬髪で、その顔立ちが眉が一字につながり、長鼻で口と顎に豊かなヒゲをたくわえています。こうした描写は、和人とは区別できる異域の人びとであることを強調しているのでしょう。残念ながら絵師の名はなく、制作地も不明です。

では、この絵馬は誰によっていつ、何のために奉納されたのでしょうか。画面には、「奉/納 仁右衛門/竹松/藤七/辰治郎/寺家平作/権左衛門 嘉永二酉三月吉日」と読める墨書銘があります。願主は地元一ノ宮村だけでなく隣村の寺家の人も加わっています。

一ノ宮村は、維新前後に海商として活躍した西村屋忠兵衛をはじめとして多くの船乗りを輩出した船稼ぎの村でした。滝屋神社では、この絵馬のほかに「北前船」船主や船乗りらによって奉納された10面の船絵馬があります。

こうした地域の特性と蝦夷地を舞台にした画題が選択されたことを考えあわせると、願主の六人は北海



の波濤にいどんだ船乗り仲間ではなかったかと想像しています。おそらく、蝦夷地との交易に従事した彼らにとって、「義経蝦夷渡り伝説」は心の支えともなった最も共感できる物語だったのでしょう。また、この絵馬を目にした人びとは、まだ見ぬアイヌの絵像に好奇の目を向けながら、まことしやかに語られる義経復活神話に耳を傾け、描かれた世界が史実であるかのような境地に引き込まれていったことでしょう。

実のところ、そうした言説空間を通して虚構の伝説が広く浸透していくことは、蝦夷地の内国化を図った徳川幕府や明治政府にとって誠に好都合だったのです。蝦夷にわたりアイヌの王とも神ともなった義経像は、和人とアイヌの平和的な従属関係を維持する世界観にかなうシンボルだったからです。

そもそも、この伝説が語られたのは江戸時代になってからです。菊地勇夫さんの研究によれば、義経入夷伝説は林鷲峯や新井白石などの中央知識人の創造とねつ造にはじまり、やがて民衆化して既成事実化していったのが真相のようです。(『義経伝説の近世的展開』2016)。

こうして誕生・成長した「義経蝦夷渡り伝説」は、アイヌの人びとを懐柔する同化政策の一環として利用されました。寛政11年(1799)の近藤重蔵によるハヨピラ(現北海道平取町)での義経神社の創建は、その最も象徴的な出来事であり、明治に入り幌内鉄道を走った北海道最初の蒸気機関車が「義経」「弁慶」と命名されたことも有名です。

この義経蝦夷渡り図絵馬は、史実とはほど遠い荒唐無稽な物語の一画面にすぎませんが、心の支配を通じて同化政策を強要されたアイヌ民族の悲痛な歴史が秘められているのです。それは、明治礼賛の気運のなかで見落とされがちな、わが国近代国家の歩みとして忘れてはならない側面ではないでしょうか。



教育プログラム

Educational Program

楽しく学べる企画をご用意しています!

れきはくで春を先どり — 金花糖の色付け体験 —



「金花糖の色付け体験」(2018.2.3)

当館では年度を通して多くのワークショップやイベントを企画・開催しています。今回は年度の催しものの最後を飾った「金花糖の色付け体験」の様をお伝えします。

金花糖は砂糖を型で成型して色付けをしたもので、お正月や雛祭りなどを祝うお菓子です。現在では数も少なくなりましたが、江戸時代のころから続く伝統的なお菓子です。色付け体験の講師には越山甘清堂の徳山康彦社長をお招きして、参加者に色付けを体験して頂きました。最初に講師から色付けの手順や金花糖についての説明があった後に色付けに入ります。色付けのポイントは薄く少しずつ色を足していくことで、これは色付け後に色を薄くできないためです。今回色付けしたのは鯛とパイナップルの2種類で、パイナップルについては色の

塗り分けも分かりやすく、皆さん順調に進めていました。パイナップルとは対照的なのが鯛の色付けでした。色の種類は単純なのですが、ヒシなど砂糖の薄い場所があるため、持つ手にうっかり力を入れると割れてしまいます。特に作業に集中しているとつい力が入るもので割れてしまった方も何人かいました。しかしただ難しいだけではなく人によって仕上がりがガラッと変わるのが生き物である鯛のいいところ。ウロコやヒシの塗り方、目の大きさ、色の濃さは人によってまちまちで、皆さんそれぞれの個性が出た金花糖が最後には完成しました。

今年の冬は例年になく大雪に見舞われましたが、一足先に春の華やかな雰囲気を感じていただけたでしょうか。

平成29年度に引き続き今年度も、特別展の内容や季節に合わせた催し物を企画しています。今年度もご来館お待ちしております。

(学芸員 野村将之)



色付け後の金花糖▶

催し物案内 Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。(各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。)

5月 休館日 5/28(月)・29(火)

24日(木) 古文書講座(前期第1回)
テーマ「加賀藩領の百姓たち」
講師: 濱岡 伸也(学芸員兼資料課長)

25日(金) 学芸員によるワンポイント解説
テーマ「近世初期における本願寺門徒の動向」
講師: 塩崎 久代(学芸員)

6月

16日(土) れきはくゼミナール
テーマ「北国武士たちの源平合戦」
講師: 岡崎 道子(学芸員)

21日(木) 古文書講座(前期第2回)
テーマ「加賀藩領の百姓たち」
講師: 濱岡 伸也(学芸員兼資料課長)

22日(金) 学芸員によるワンポイント解説
テーマ「いしかわの祭礼風流」
講師: 大門 哲(学芸員)

学芸員によるワンポイント解説 全11回 要観覧料、申込不要

時間 13:30~14:00 場所 展示室

毎月1回、金曜日に実施している展示解説。
当館の学芸員が博物館のみどころを紹介します。

れきはくゼミナール 全11回 受講無料、申込不要

時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム

毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。
当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。(3月は2回)

古文書講座 前期4回・後期3回 受講無料、要申込

時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム

当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。